



農業革命事業案「旬の再現と超越」

地球温暖化で十年後に迫る作物収穫危機のソリューション

SDGs（エス・ディー・ジーズ）「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」達成化事業



地球温暖化により屋外での作物収穫量は激減します。

しかし現在は水耕栽培や養液灌水等で様々な作物を屋内で収穫する事がIoTとAI技術により可能になりつつあります。

世界各地で必要とされる作物、消費量をAIで分析し効率よく栽培する事も可能になります。

アプローチ

STEP1: AIにより作物需要地の「作物品種・品質・経済性」などから必要性の高い作物を判断。

判断項目=>「どこで・何を・どんな品質で・どれだけの量を・どんな栽培方式で」

世界各地消費者の必要栄養素（必要食に関する）データの分析も実施。

STEP2: 作物種の最も「適地・適作」の栽培環境データを産地より収集。

STEP3: 産地栽培環境収集データ、作物種の各地必要性・経済性データも活用し、屋内栽培へ反映。

STEP4: 土耕・水耕・養液灌水など各栽培方法による平均的データを分析。

作物は種類により、ベストな環境が異なる。現実的に有用活用レベルにするためには特定作物に限定し、その作物を最も効率的かつ安定的に提供できる方法をデータをもとに屋内栽培で再現させる。

STEP5: 情報技術により、必要なものを必要分、育てる。

作物は、地球上の個々の生育環境に適した地域で収穫ができていました。
しかし地球温暖化で、作物産地の環境は急速に変化しています。
最早、各作物生産者の”勘やノウハウ”は環境悪化により適用出来ない状況です！
AI分析で得た地域に必要な作物、需要、消費量から

各産地の気中・土中の環境データを的確な方法で収集しAIで分析し、
各地で必要とされる作物を、各地の”屋内装置”で栽培出来るプロセス構築は急務です。

我々の持つ通信/計測制御技術や永年に渡る屋内作物栽培技術を駆使し早急に事業化し

後世の人々に“我々が味わった美味しく健康に良い作物”を栽培出来る技術を提供することは我々の義務であると考えます。

適地適作温暖化 ➡ 作地減少

高品質・高収量

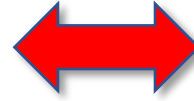


品質低下・収量減

適作適方 ➡ 食の安心・安定

必要野菜を必要地で屋内栽培し高品質・収量の安定

IoT



AIで各地での作物需要等を分析
産地気中・土中・周辺等の環境
生育関与項目を精査し収集

各産地通信インフラを選択し
クラウドサーバへ送付

各産地環境をAIで分析し
屋内栽培装置へ送信
栽培履歴、結果を分析学習保存

各産地植物を都心屋内栽培施設内で
人工気中機器、養液灌水・水耕等で栽培